

| | |
|--|--|
| NITS・教職大学 院等コラボ研修 プログラム支援事業 報告書 | 実施機関名・連携機関名 実施機関：京都市教育委員会 連携機関：京都教育大学大学院連合教職実践研究科 京都市立下京中学校 |
| | セミナー名：【NITS・アクティブラーニング連絡協議会 コラボ研修 in KYOTO 2021】 |
| | 主タイトル：A Lの具体的実践を学ぶ 副タイトル：質の高い授業の実現に向けて |
| | 開催日時：令和3年8月7日 13時30分～16時30分 開催場所：京都市立下京中学校 参加者：教員75名，教育委員会3名，大学関係者等4名 計82名 |

テーマ：

本セミナーでは、アクティブラーニングを取り入れた授業改善の研究交流を進めている5団体（下京中・新香山中・辰口中・福井アクティブラーニング研究会・調布市教育委員会）が、互いの実践を交流し自校の研究に落とし込むことによって、資質・能力の効果的な育成につなげる実践の一助とし、また、他の先進校の実践を学ぶことにより、一層効果的な実践につなげることを目指しテーマを設定した。

内容：

本懇談会はコロナ禍を考慮し、会場参加、オンライン参加併用のハイブリッド形式による2部構成で実施した。第1部は京都市立下京中学校、福井アクティブラーニング研究会、岡崎市立新香山中学校、調布市教育委員会の実践発表を行った。第2部は、つがる市立柏中学校の中道校長による実践発表を聞き、先進校の事例を積極的に取り入れながら近隣地域の中学校が一体となった授業改善に関する研修を行った。

第1部

○福井アクティブラーニング研究会の発表内容

福井市明倫中学校の研究活動の報告であった。深い学びの実現を目指し、二段階に分けて『問い』を設定し、二つ目の『問い』によって一つ目の『問い』の本質に迫るなど、主体的に問いを持ち、対話を通じて学びを深める授業実践について、方法や成果等を発表された。

○岡崎市立新香山中学校の発表内容

GIGA 端末を効果的に授業で活用し、地域教材やSDGsをテーマにした総合的な学習を中心とする研究について報告された。総合的な学習を要に、教科授業がつながりをもって、生徒の主体性を育成している様子が感じ取れる発表であった。

○調布市教育委員会の発表内容

授業改善に向けた調布中学校の研究を、調布市内の他の中学校に広げ、地域一帯となった研究活動につながった取組について報告された。校長のリーダーシップの重要性や、教育委員会と学校の連携のポイントについて意見交流が活発に行われた。

○京都市立下京中学校の発表内容

授業改善に向け①単元デザイン、授業デザイン②コンテンツベース③コンピテンシベースの3つの視点によるカリキュラム・マネジメントについての研究報告であった。学校教育目標の実現に向けて、組織的に資質・能力を育成するしくみづくり、また、その成果を見取るための具体的な手法について発表された。

○能美市立辰口中学校（書面報告の内容）

単元を貫く問いを設定し、ICTを効果的に活用した授業実践の状況が報告された。研究を中心的に担う教員が異動しても、質を維持して研究を続けている様子がよくわかる報告であった。

第2部

青森県のつがる市立柏中学校の中道校長による講演『質の高い授業の実現に向けて』を通して、具体的な授業改善に向けた実践とその課題について意見を交わすことができた。青森県のような地方が抱える都市部との格差、それを意識的に改善するために、都道府県の壁を超えて積極的に研修に出向き、得た成果とその普及実践の様子が報告された。「質の高い授業」の実現に向け、自校に留まらず近隣地域の学校を巻き込みながらオンライン学習等を通して、多くの教職員と情報を共有し共通理解を図り、地域全体の底上げに取り組む実践に多くの参加者が刺激を受け、自校での実践に向けて意見交流ができた。公立中学校として、人事異動や学校間格差もある中、ぶれずに授業改善に取り組むことの重要性を再確認することができた。

成果：

- ・会場参加が可能であったため、発表者は聴衆の雰囲気を感じ取り、熱の入った発表をすることができた。
- ・オンラインでの参加も可能であったため、全国各地から多くの参加者があった。グループ討議等は時間の都合上できなかったが、多くの参加者が様々な実践にふれ、有意義な研修会となった。
- ・研修講師の田村学教授〈國學院大學〉から、各校・団体の研究についての講評と、新学習指導要領の学習評価についての講演を聞くことができた。特に、主体的に学びに向かう態度の評価について、分かりやすくご教授いただき、参加者のニーズと合致した有意義な研修となった。

アイデアや工夫したこと：

- ・各校、団体が重視している研究について詳しい説明が行われ、主体的・対話的で深い学びを実践するに当たってのポイントが整理できる内容であった。
- ・田村学教授の助言が適宜入り、参加者の疑問等がクリアになるよう、時間設定に留意した。
- ・会場は感染防止のために、消毒、アクリル板の設置等の対策を講じて研修を行った。
- ・オンラインではチャット機能で質問や意見を全体で共有するとともに、研修中の事務的な連絡を迅速に行うことができた。また、画面共有することにより、分かりやすい説明や画像提示をすることができた。

<写真・図など> ※会場の熱気や規模がわかる写真、参加者の表情がわかる写真（寄って撮影またはトリミング）を撮影してください。

* オンライン形式のため写真無し